

# 街道を歩く



## 中山道：加納宿西一河渡宿



宿碑と松下神社



### 鏡島弘法 瑞甲山乙津寺 (梅の寺で知られる)

天平10年行基が開祖、空海が嵯峨天皇の勅命でこの寺を訪れ自分の姿を刻んで安置したという。本尊千手観音(国重文)。昔ここは海に浮かぶ津島であったが空海が秘伝を修し宝鏡を龍神に向けてとちまち海原が陸となった、ここを鏡島と名づけ寺を乙津寺とした。

### 河渡の戦い

関ヶ原合戦の前、東軍は清須から米野と竹鼻の二手に分かれ、米野に向かった池田輝政一行は西軍織田秀信軍に勝利(米野合戦)、次に岐阜城を攻め落とし、秀信を高野山へ送った。竹鼻城へ向かった黒田長政一行は竹鼻城で攻め、岐阜城攻めに後れをとったので河渡へ向かった。河渡にはすでに西軍が布陣陣していた。激しい銃撃戦となったが、霧の立ち込めた朝で西軍は朝食中であったこともあり敗戦。沢渡で軍議を開いていた三成はこれを知り大垣に退去。

**松下神社**  
宿周辺は低湿地帯で度々の水害に悩まされていた、美濃代官松下内匠文化10年(1813)幕府の貸付金で宿場を5尺ほど高く盛土し宿を護った。その遺徳を今に伝える。



### 杵築神社

祭神 素盞鳴尊  
古来より粥づけの神事が行われその年の豊凶を占った。300年の伝統。



### 馬頭観音堂

もとは宿東入口自然堤防上にあり名は愛染堂お堂は6間4面と大きく乗船する人の待合所も兼ねていた。天保13年(1842)宿場の荷駄役の人たちが寄進し愛染明王を祀ったのが始まりいつしか馬頭観音にかわる。

### 小紅の渡し

一日市場から岐阜へ嫁ぐ花嫁が長良川の川面に顔を写し、紅、白粉を落とし、在所の未練を断ち、小紅を付けて渡ったという。渡しは加納藩主戸田氏の本巢郡下の分家との連絡のため開設したとか

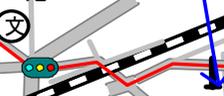
### 河渡宿

(加納宿より一里6町)  
氾濫する川止め避難所も兼ね寛永11年(1635)宿が出来た。  
町は長良川右岸に東西直角に延びる両側町東から東町、中町、西町、本陣は東町、問屋場は東町、中町に一軒ずつ、脇本陣はなかった街並は3町ほど、茶屋、酒屋、豆腐や、たばこやなどで賑わった 戦災ですべて焼失した。



### 一里塚跡

(住宅の車庫の脇に碑がある)



### 阿賀多神社

祭神 仁徳天皇  
応仁2年仁和寺天龍寺の兵焚の難を逃れて一条兼良卿が当地来て阿賀多庄郷土角藤大夫の好意により足止めする事数ヶ月、河川の氾濫に遇う、この時御神体漂着、大夫拾い上げ家内に安置する。夢のお告げでこれが応仁天皇、堂宇を建て崇拝すると土地肥え靈験あり、以後、氏神として崇敬。



阿賀多神社



西の番所跡